



バングラデシュ

BOP実態調査レポート

協同組合

概要

バングラデシュには様々なタイプの協同組合がある。これらは農村部の異なる事業分野やコミュニティのニーズに応えるために設立されてきた。現在、18万余りの協同組合があるが、その内の約10万は活動を停止している。その理由は政府の融資を返済しなかったためである。

協同組合は政府からの融資で運営されていた。政府は農家に対し5,000タカ(約62ドル)の農業ローンを免除すると公表したが、これは協同組合の農家には適用されなかった。そのため協同組合の農家は政府融資に対する利息の支払いを止め、その結果、政府は協同組合への融資を停止した。このような状況で、協同組合の活動が徐々に停止することとなった。

■協同組合局(DOC)

協同組合局(DOC)は、地方政府・農村開発・組合省(MLGRDC)の一部局である。DOCは、人、農業、自然、技術、財政やその他資源の管理を通じて貧困削減と経済発展に取り組んでおり、協同組合がビジネスを志向し持続的に発展することを目指している。協同組合を運営するには、DOCに登録が必要である。

■協同組合の種類

一次協同組合 20人以上の個人会員で形成され、会員の経済発展を推進することを目的とする。

中央協同組合 10の一次協同組合により構成される。一次協同組合の活動が円滑に行われるよう支援することを任務とする。郡ごとに中央協同組合の事務所がある。中央協同組合は貧しい農家にトラクターや灌漑機械を提供することや、その他農業関連の物流の支援を行っている。なお、協同組合局によれば、現在はすべての支援が停止している。

全国協同組合 共通の目的を持つ10の中央協同組合で構成される。中央協同組合の活動を調整することを任務とする。



■協同組合の組織

協同組合を設立するには、協同組合局(DOC)への登記と、構成要素として以下の2つの組織が必要となる。

◇会員

会員は協同組合の所有者兼利用者で、協同組合への支援活動や資本の投資、意思決定への参加を通じて、会員の立場が維持される。すべての協同組合に資本があり、会員は額面価格で株を持つ必要がある。

◇運営委員会

運営委員会は、協同組合の日常業務を監督し、調整し、協同組合の全会員が出席する2つの会議(年次総会、総会)の手配に責任を負う。

協同組合の払込資本の50%以上が政府である場合、または総融資額の50%以上を政府が融資している場合、政府が運営委員の3分の1を選任する。それ以外は、登記期間の間、登記人が1年間を任期として運営委員会の委員を選任する。登記期間中、運営委員会は、3年間を任期として定期的に新たな運営委員会を組織する。

すべての協同組合は以下の登記を維持しなければならない。

- ・最新の会員
- ・最新の持分
- ・最新の預金額(預金がある場合)
- ・最新の融資額(融資がある場合)
- ・運営委員会と総会の最新の決議
- ・最新の現金残高

現地調査結果～農業と乳製品の例

バングラデシュには、農家が共同で採種して、作物を育て、組合を通じて販売する農家の協同組合はない。その結果、農家には公正な価格で販売する機会も交渉力もなく、農家は、一次協同組合から融資を受けて野菜を栽培している。組合から融資を受けるためには、農家は協同組合の会員にならなければならない。

乳製品の場合は協同組合があり、組合員が牛を飼い、協同組合を通じて牛乳を販売している。バングラデシュ牛乳生産者協同組合連合(Milk Vita)は、酪農家が貧困を軽減できる適正価格をつける唯一の協同組合である。他には、CAREバングラデシュ(各種の協力を行う国際NGO)が実施する「乳製品バリューチェーン強化」(SDVC)があり、ビル&メリンダ・ゲイツ財団が資金を提供している。

現在、一次協同組合は都市や農村部で特定のコミュニティと協力して事業を進めている。DOCに登記せずにコミュニティの住民が自ら改善を図るため協同組合を設立する場合がある。

協同組合は、会員が自立し貧困から抜け出せるよう支援するという共通の原則の下に運営されている。協同組合の典型的な会員は、主婦、農民、商店主、行商人、実業家、公務員、社員、結びつきの強いコミュニティの住民等であり、これらの人は一般に他の公的な金融機関を簡単には利用できない人たちである。

また、様々な種類の預金制度を導入している。会員は所得の中から預金または持分の形で協同組合にお金を預ける。預金が満期を迎えると、一度にかなりの額を手にすることができるため、貧しい人々には非常に役立っている。組合員はこの資金を生産的な方法で使用することができる。満期前でも、会員は投資のために協同組合から融資を受けることができる。協同組合は、貧困層の将来の経済成長や発展を促進する重要な役割を果たしている。

貧困層が投資する事業としては、次のものがある。

- ・野菜栽培
- ・野菜小売店
- ・養鶏場
- ・小規模ホテル/レストラン
- ・果実店
- ・家電製品店
- ・漁業
- ・小規模雑貨店



養鶏場、漁業、野菜栽培に従事する会員の生産物は、協同組合を通じて販売されるのではなく、個々に地元で販売し、利子を加えた貸付金を協同組合に返済する。





農業部門の伝統的取引

野菜生産者のための協同組合はないが、農家は少量の野菜を地元の市場や路上で、大量の野菜は中央市場で販売している。農家は生産者であり、取引方法を知らず低価格で野菜を販売しているが、都市に運べば、地元市場よりも3~4倍の高値で野菜を売ることができる。

米生産者も野菜生産者と同様、公平な価格で販売できていない。米の収穫期(11月~12月、4月~5月)には、米価が農民の希望よりも安くなり、大手の取引業者が安値に乗じて農家から米を購入する。大手取引業者は米を保存し、需要が増える時期に販売するが、農家は需要が多い時期に販売する米がなくなっている。

野菜生産者は協会や協同組合の会員ではないが、大手取引業者は協会/協同組合を持っている。大手取引業者は、町や市の中央市場のいずれにも協同組合を組織している。

乳製品の場合

■バングラデシュ牛乳生産者協同組合連合(BMPCU)

Milk Vitaのブランド名で知られるバングラデシュ牛乳生産者協同組合連合は、独立戦争直後の1973年に、UNDP/FAOとDANIDA(Danish International Development Agency)の勧告に基づき、インドのAMUL(インドを代表する乳製品ブランド。元は1946年にグジャラート州で始めた小さな協同組合であった)にならって政府が設立し、1974年2月に事業を開始した。BMPCUは、農村部の貧しく土地を持たない酪農家に公平な価格を保証することを目的に協同組合乳業コンプレックスと言う名の政府の開発プロジェクトとして始まった。

目的

- 家庭の栄養状態の改善と購買力の向上
- 牛乳の収量と製造工場の生産性の向上
- 協同組合への直接参加を通じたコミュニティの貧困からの脱却
- 牛乳生産者から選ばれたMilk Vita役員を通じた経営能力の向上
- 健康意識が向上した消費者が入手可能な、安全な低温殺菌牛乳の生産量の拡大と品質向上
- 農場以外の雇用創出

農家がBMPCUの会員になるには、牛を所有し、一次協同組合が持つ株の100タカ分を購入し、入会金10タカを支払う。各年度の利益は持分に応じて配当される。政府にも配当が支払われる。

土地を持たない小農家は、伝統的な市場制度では仲買人によって搾取されてきたが、現在、農家7万余人は、公平な取引が保証された市場で毎日約25万リットルを販売し金額を受け取っている。

農村にある製造工場ですべての処理をした後、牛乳はダッカに運ばれて処理され、箱詰めされ、低温殺菌されて牛乳・乳製品として都市の消費者に販売されている。



■協同組合局による新乳製品事業

協同組合局とBMPCU(Milk Vita)は、協同組合局が資金を提供する新たな乳製品事業について覚書を締結している。このプロジェクトの主な目的はダッカ管区ガジプール県カピシア郡における貧困の緩和である。このプロジェクトにおいて協同組合局は農家が牛を2頭買うための融資を行う。プロジェクトの融資総額は1億6,000万タカにのぼる。BMPCUが酪農家からミルクを集荷し、さらに加工して都市の消費者に販売する。





■乳製品バリューチェーン強化(SDVC)プロジェクト

2007年にCAREバングラデシュは、乳製品バリューチェーン強化(SDVC)プロジェクトを開始した。これはビル&メリンダ・ゲイツ基金が5年間で525万ドルの資金を提供するプロジェクトで、北部および北西部の9県の土地を持たない3.5万の農家(17.5万人)を対象に、乳製品バリューチェーンへの参加を推進し、その利益により生活を改善することを目的としている。CAREバングラデシュは、プロジェクトの終了までに参加農家の世帯所得が月額18~30ドルから40~50ドルに増加すると期待している。

プロジェクトの活動を理解するため、今回、調査担当者がボグラ県Gabtoli郡のJathholida村を訪問した。この村には約30のグループがあり、それぞれに30人の会員がいる。会員の多くは女性である。牛乳集荷センターがあり、毎日、集荷人が会員から牛乳を集荷センターに集める。1日当たりの平均集荷量は約200~250リットルであった。CAREバングラデシュでは公正価格制度を導入しており、参加する牛乳生産者は、集荷センターに直接牛乳を持ち込んで、牛乳中の乳脂肪に応じた公正価格を受け取る。集荷センターでは乳比重計を使い計測される。この制度により農民は仲買人や地方市場に頼らずに牛乳を販売できるようになった。

◇プロジェクトの結果◇

2010年4月時点で、SDVCによって1.5万の農家が519の生産者グループに組織され、牛乳集荷人163人と地元のアニマル・ヘルスワーカー120人が研修を受けた。農家の牛乳生産量は1日当たり2.1~3.78リットル増加し、牛乳関連の収入は1日当たり30~39.3タカ(約0.36~0.48ドル)増加した。SDVCの生産者(77%が女性)の間では、民間加工業者に牛乳を販売する者の割合が25%から29%に上昇し、農家の平均売却価格は5%上昇して26.5タカ(約0.38ドル)となった。女性の農業指導者が農民グループの65%で指導を行っており、グループの農家やコミュニティーに家畜の健康や給餌についてアドバイスしている。またSDVCは、主要加工業者のBRAC、PRAN、Milk Vitaと覚書を結び、加工業者が商業ベースで利益をあげつつ農家に必要な資材やサービスを提供する方法を検討するよう支援していると言う。

市場参入の方法

バングラデシュは、人口の80%が村落に居住している人口過剰の国である。協同組合やNGOを利用することでこの大市場に参入することができる可能性がある。

農村部で貧しい女性を活用して、販売活動が行われているが、このアイデアを生み出したのはNGOで、グラミンやBRACなどのNGOが、コミュニティを活用して商品を販売している。

協同組合やNGOを通じて、商品の知識を農村部の住民に伝えることができ、貧しい女性に職を与えることで貧困を緩和し、生活を向上させる可能性を持っている。

農村市場に参入するには、協同組合やNGOを利用することが効果的な方法になると思われる。

JETRO

【免責事項】本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。